

令和5年度 学校経営重点計画

学校番号 (中22) 学校名 (熊本市立西原中学校)

学校教育目標 「自律」から「自立」へ ～集団生活における学びを自ら将来に繋げる生徒の育成～
--

現状と課題
▽生徒数581人(4/11現在通常16・知的2・自情2・肢体1)で生徒は全般的に素直で明るく、概ね落ち着いた雰囲気中学校行事や部活動等に前向きである。部活動加入率は文化・運動系合わせて約62%と高い割合にはないが文武両道で意欲的に取り組んでいる。 ▽生徒指導の課題は減少しつつあるが、昨年度末の長欠生徒の割合は約9%と高く、生徒の家庭も含めた支援が大きな課題である。(H30～R2不登校対策モデル校、R3～不登校対策重点校) ▽学習面ではR4市学力検査から正答率が全国・市を同程度あるいはやや下回り、基礎学力も含めた学力向上は課題の一つである。

校長としての経営のポイント
「さらにながらばる西原～生徒も教職員も明日が待ち遠しく、保護者や地域から応援される学校をめざして～」を合言葉に日々の学校生活に臨む。 ▽本校教職員が組織の一員としての自覚をもち、教育への使命感と教育愛をもって協働して生徒たちへの教育にあたり、保護者や地域の信頼に応えるために次のような学校をめざす。①生徒も教職員も日々の学びや成長を実感でき、今日が充実して明日が待ち遠しい学校②保護者や地域から応援していただける学校 ▽教育活動全般において①自己存在感を与える②共感的な人間関係を育成する③自己決定の場を与える「生徒指導の三機能」が取り入れられた教育活動を展開する。

変容した学校の姿
▽生徒も教職員も学校生活に主体的に臨み、授業や諸活動に目的意識をもって意欲的に取り組んでいる。 ▽学校HPや学年・学級通信等で家庭や地域へ積極的に情報発信している。 ▽生徒並びに教職員相互の良好な人間関係が構築されている。

重点目標	評価指標	主な具体的方策
校訓「仁」より(ともに認め合う) 生徒たちが互いに認め合い、支え合う教育活動を推進する。	学校は一人一人の子どもを大切にしたい指導や対応ができていると回答した生徒や保護者の割合を80%以上にする。	> 生徒会や学校行事等の活動において、生徒が主体的に動き、生徒間の絆が深まるような計画・実行・評価を行って次に繋げる。併せて生徒の達成感、連帯感、自己有用感の獲得につながるような手立てを仕掛ける。 > SC、SSW、不登校対策サポーターを積極的に活用し、生徒の心のケアや不登校対策・登校支援に取り組む。
校訓「知」より(ともに学び合う) 生徒たちが互いに学び合い、高め合う学習活動を推進する。	先生方はわかる授業、楽しい授業づくりに努めていると回答した生徒や保護者の割合を80%以上にする。	> 各教科等の授業において、主体的・対話的で深い学びの視点からのICTを活用した授業改善に取り組む。加えて教師が教える授業から生徒が学び取る授業への転換を図る。 > 生徒の日々の学びを将来に繋げていくためにキャリアパスポートの活用などキャリア教育の視点を活かした教育活動を推進する。